

# 当別町幼保小接続プログラム

～子ども達一人一人の健やかな成長のために～

当 別 町  
当別町教育委員会

## 目 次

1	接続期における教育・保育の重要性	1
2	当別町の幼児教育・保育環境	1
3	幼保小接続の現状と課題	1
4	幼児期の教育・保育と小学校教育の違い	2
5	幼児教育・保育において育みたい資質・能力	3
6	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	4
7	幼児教育と小学校教育の円滑な接続イメージ	5
8	認定こども園と小学校を繋げる共通理解と取組	6
9	接続期の教育・保育活動のポイント	7
10	幼保小接続プログラムの活用	8
11	幼保小接続プログラム	9
12	改善サイクル	10

## 1 接続期における教育・保育の重要性

幼児教育では、環境を通して行う教育を基本とし、自発的な活動としての遊びを通して一人一人に応じた総合的な指導を行います。

また、幼児期は、能力開発、身体育成、人格形成、情操と道徳心の涵養にとって極めて重要な時期であり、知識やIQなどの認知能力だけでなく、根気強さ、意欲、自尊心、自己制御などの非認知能力を身につけることで将来にわたって学びと資質・能力の向上に大きな差ができるとされています。

また、平成30年3月の幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂においては、家族・保護者の第一義的な役割の重要性とともに、認定こども園等で行われる幼児教育・保育の役割の重要性、学びの基礎力の育成と就学前教育・保育と小学校教育の連続性がさらに重要視されるようになり、改正教育・保育要領では、新たに「教育・保育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明示されました。

このことから、認定こども園など就学前の教育・保育では、小学校以降の教育の基礎を培うものであるため、特に認定こども園から小学校への接続期においては、連続性と一貫性をもった円滑な接続が極めて重要であります。

## 2 当別町の幼児教育・保育環境

本町では、平成23年4月の認定こども園当別夢の国幼稚園開園と平成31年4月の当別町ふとみ保育所の認定こども園化（認定こども園おとぎのくに）により、町内にある2校の小学校校区ごとに認定こども園が設置され、一貫性のある教育・保育を実施しやすい環境の整備を進めてきております。

## 3 幼保小接続の現状と課題

幼児教育と小学校教育との接続において、遊びや生活を中心とする幼児教育と教科等の学習を中心とする小学校教育とでは、教育の内容や手法が異なるため、そのギャップにスムーズに適応できないことにより小学校入学後「集団行動が取れない」「授業中座ってられない」「先生の話を聞けない」など、いわゆる“小1プロブレム”が昨今全国的な課題となっており、本町においても無関係なものではありません。

そのため、幼保小の接続を一層強化することが重要であり本町においても、小学校入学時の引継ぎ（園児指導要録など）や小学校及び認定こども園の子どもや教職員の交流を進めてきています。また、幼児教育と小学校教育における教育内容や方法を十分理解したうえで、保育教諭は「今の学びが今後どのように育っていくのか」また、小学校教員は「今の学びがこれまでどのように育ってきたのか」を見通し、子どもの発達段階を踏まえた教育・保育活動の充実を図る必要があります。



## 4 幼児期の教育・保育と小学校教育の違い

### ● 「学びの芽生え」と「自覚的な学び」

就学前教育・保育は、小学校教育の先取りではなく基礎を築くものです。就学前教育・保育では、遊びの楽しさからくる意欲や集中、気づきなどの「学びの芽生え」を育むことが大切です。

この学びの芽生えが、小学校教育において、各教科などの授業によって計画的に学習を進める「自覚的な学び」へとつながっていきます。

<p style="text-align: center;"><b>幼児教育・保育</b></p> <p>遊びの中で、さまざまなものや人に関わりながら、自発的に学んでいく。</p> 	<p style="text-align: center;"><b>小学校教育</b></p> <p>時間割に基づき集団指導の中で、全ての子どもが共通の目標に向かって学んでいく。</p> 
--	--

	<p style="text-align: center;"><b>幼児教育・保育</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>小学校教育</b></p>
単位	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活の単位が1日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>45分を1単位とする</li> </ul>
1日 流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味、関心に応じた幼児の生活リズムに合わせた1日の流れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間割に沿った1日の流れ</li> </ul>
学習 区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科・道徳・特別活動等の区分はない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科・道徳・特別活動等の学習</li> </ul>
教育 課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の生活や経験を重視する経験カリキュラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学問体系の獲得を重視する教科カリキュラム</li> </ul>
学習 スタイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を遊びや生活を通して総合的に学ぶ。遊びそのものが学習（体験や経験による学び）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等の学習内容を系統的に学ぶ</li> <li>体験を論理的思考につなげる学び</li> </ul>
学習 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>方向目標中心</li> <li>児童期以降の教育の方向付け（心情・意欲・態度等）を重視する</li> <li>～を感じる、～を味わう、～を楽しむという方向付けを重視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成目標中心</li> <li>具体的な目標への達成度・到達度を重視する</li> <li>～することができる、～がわかるという表現</li> </ul>
教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境を通して行う教育・保育</li> <li>幼児が自ら進んで動き出したいくなるような環境（物的環境・人的環境＝人・物・事が教材）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を使用し、教材を介して教師の指導助言により学習を進める</li> <li>教科書が主たる教材</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人内評価（育ちの方向への近づき）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標準拠評価を前提とした評価</li> </ul>

## 5 幼児教育・保育において育みたい資質・能力

平成30年度に施行された「新幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では、生きる力の基礎を育むため教育及び保育の基本を踏まえ「幼児教育において育みたい資質・能力」として次の3つの柱を掲げています。

### ①知識及び技能の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、気づいたり、分かったり、できるようになったりする力の基礎

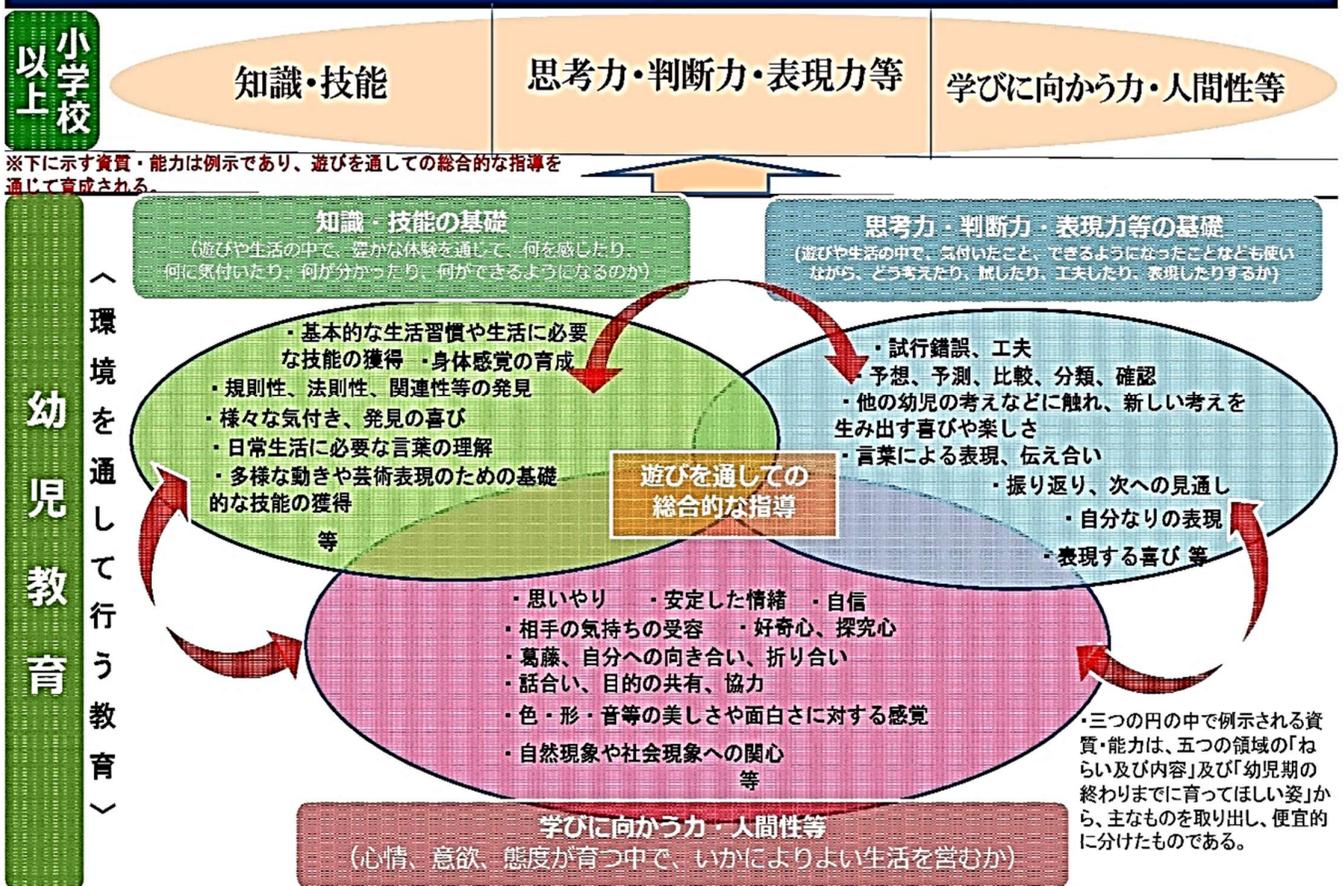
### ②思考力、判断力、表現力等の基礎

気づいたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする力の基礎

### ③学びに向かう力、人間性

心情、意欲、態度が育つ中でよりよい生活を営もうとする力の基礎

## 幼児教育において育みたい資質・能力の整理



## 6 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」において示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、乳幼児期においてふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、資質能力が育まれている園児の姿として、5歳児の後半にみられるようになる姿であるが、到達目標でなく、また個別に取り出されて指導されるものでもなく、遊びを通して総合的な指導を行う中で一体的に育まれるものであります。

### ① 健康な心と体

認定こども園の生活の中で充実感を持って自分のやり遂げたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活を作り出す。

### ② 自立心

身近な環境に主体的にかかわり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、あきらめずにやり遂げることで達成感を味わい自信をもって行動する。

### ③ 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げる。

### ④ 道徳心・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したり、相手の立場に立って行動するようになる。また、決まりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し友達と折り合いをつけながら、きまりをつくったり、守ったりする。

### ⑤ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちを持つとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみを持つようになる。また、認定こども園内外の様々な環境にかかわる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識する。

### ⑥ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにする。

### ⑦ 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚える。

### ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

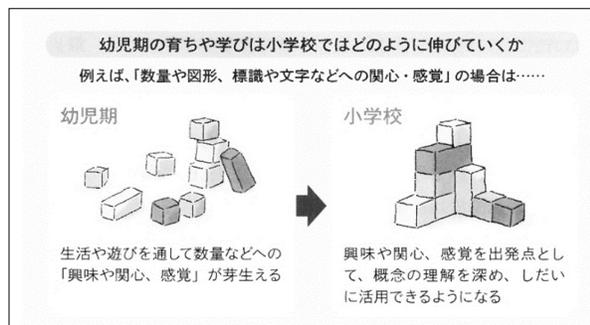
遊びや生活の中で数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつ。

### ⑨ 言葉による伝え合い

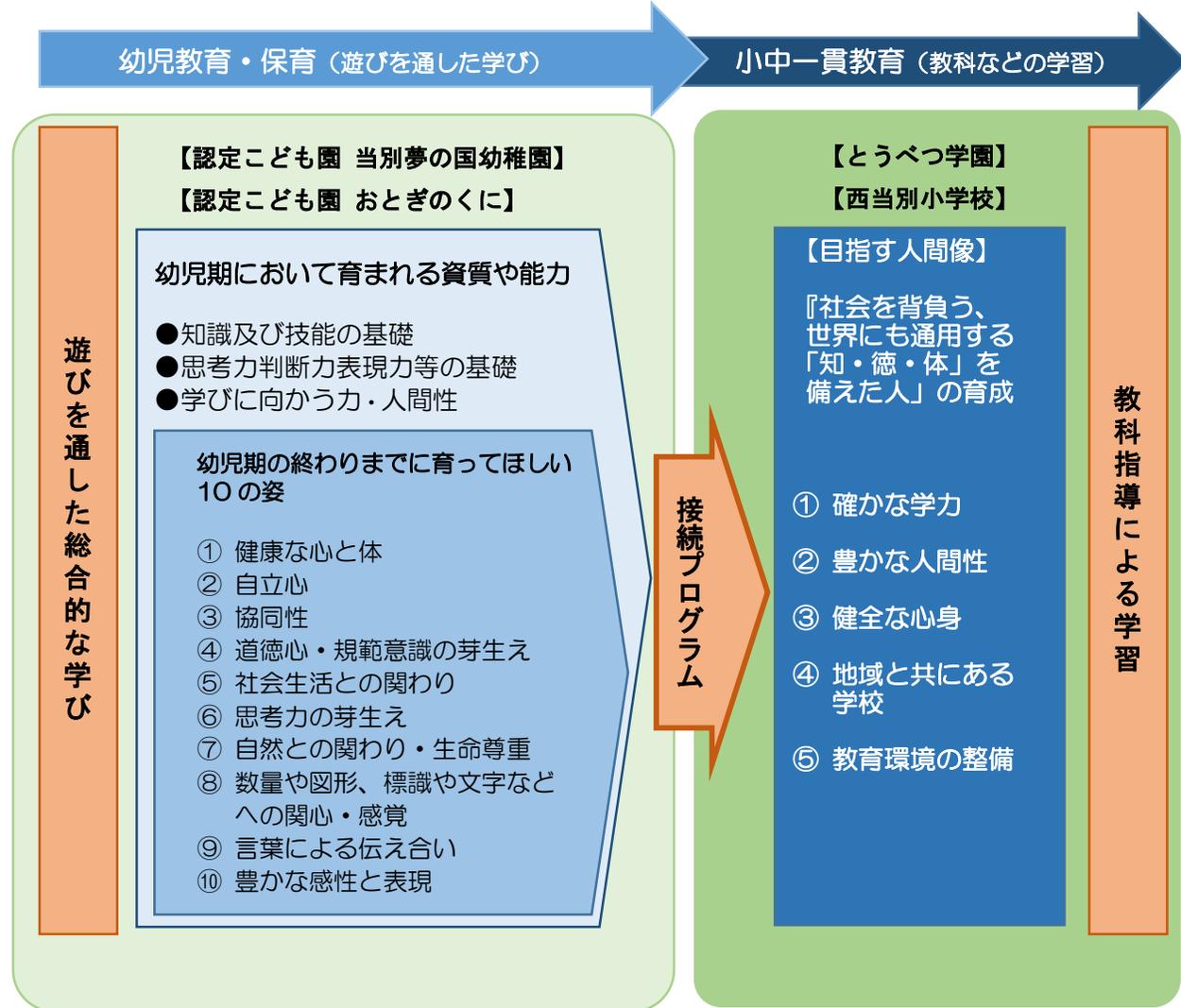
先生や友達と心を通わせる中で絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむ。

### ⑩ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつ。



## 7 幼児教育と小学校教育の円滑な接続イメージ



### ◎「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における幼保小接続に関する記述

幼保連携型認定こども園においては、その教育及び保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を養うようにするものとする。

### ◎「小学校学習指導要領」における幼保小接続に関する記述

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼保連携型認定こども園教育保育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

## 8 認定こども園と小学校を繋げる共通理解と取組

### 【小学校において入学時に望まれる園児の具体的な力】

- ① 人の話を集中して聞くことができる
- ② 自分の気持ちを言葉で伝えることができる
- ③ 一定時間落ち着いて座っていられる
- ④ 学校生活を見据えた生活リズムを身につける
- ⑤ 挨拶や返事を進んですることができる
- ⑥ 最後まであきらめないう物事に取り組むことができる
- ⑦ 友達と仲良く遊ぶことができる
- ⑧ 基本的な交通ルールを守ることができる
- ⑨ 自分の名前を読み書きできる（ひらがな）
- ⑩ 10までの数がわかる
- ⑪ 自分のことは自分でしようとする意欲 など



### 【認定こども園での就学に向けた接続期の具体的な取組】

- ① クラス活動での集中力の育成
- ② クラス・グループなどでの話し合い活動
- ③ 午睡時間の短縮（生活リズム訓練）
- ④ 園生活での規範意識育成
- ⑤ 行事を通じた連帯意識の向上
- ⑥ 遊びや集団活動を通じた達成感の享受
- ⑦ 教師や他児との関わりから自主性や思いやりの心の育成
- ⑧ 屋外活動での交通ルールの習得
- ⑨ 文字や数字を使った遊びの展開
- ⑩ 小学校入学への喜びや期待など意欲の向上
- ⑪ 活動を通じた一斉指示の訓練 など



## 9 接続期の教育・保育活動のポイント

### 【認定こども園での取り組み】

- 認定こども園においては、小学校教員との共通認識のもと小学校生活のスタートを見据えた子どもたちの資質・能力の育成及び生活習慣の適応に配慮した指導を進める。

#### ～円滑な接続に向けて意識したい3つの援助～

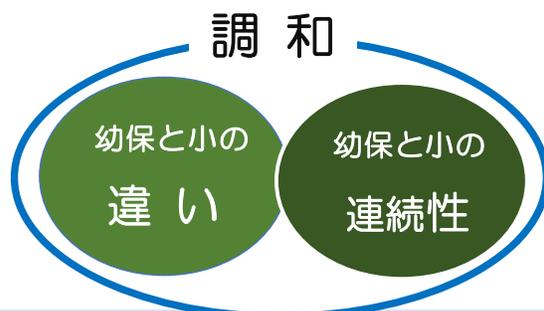
- ① 子どもの言語化を助ける～「保育者は、子どもの思いを先回りして言葉にせず、子ども自身や子ども同士による言語化を支えることで言葉や文章などによる表出する力が養います」
- ② 共感的な関わりを大切にする～「保育者が子どもの頑張る姿に共感する姿勢を見せることで、子どもの安心感や自己肯定感が高まり、次の意欲を産みます」
- ③ 環境構成と教材を工夫する～「子ども達がより一層夢中になれる環境や教材を検討することで、その体験が小学校での課題に集中する力につながります」

### 【小学校での取り組み】

- 幼児教育と小学校教育の接続を円滑にするため、小学校においては、認定こども園における教育活動・内容・違いを理解し、小学校入学後の学習指導へ円滑につなげる。

### 【認定こども園及び小学校での取り組み】

- 要領・指針等に新たに位置付けられた「教育・保育において育みたい資質・能力」を育み「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼児教育施設の保育者と小学校の教員が共有し、幼児教育と小学校教育との学びの連続性を確保する。
- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るため、園児指導要録等を用いた引継ぎや認定こども園と小学校の教職員間の児童に関する情報共有を徹底する。
- 接続期において、就学前に園児の小学校訪問などを通して、子どもの環境や生活スタイルの変化によるギャップの軽減を図る。
- 特別な支援を必要とする子どもについて、一人一人の状況に応じ個別の教育支援計画を基にした丁寧な引継ぎにより切れ目のない支援を行う。



就学前教育・保育と小学校教育の違いと連続性・一貫性を理解し、調和させる意識を持ち何をどのように接続させていくのかを考えることが大切です。



## 10 「幼保小接続プログラム」の活用

### ● 各認定こども園での指導計画作成の際の資料として

- ① 小学校入学に向けた指導計画では、言葉による伝え合いや協同する遊びなど小学校入学を見据えた学びの質を高めていくことが必要です。

指導計画作成に当たっては、各認定こども園において園児の特性や地域性等を生かした特色のある取り組みを通して、4半期・各月・各週の指導計画を作成をする際に幼児期の生活や経験が小学校でどのような生活や学びにつながっていくかを見通すための資料（指針）として「接続プログラム」を活用してください。

### ● 各小中学校で指導計画作成のための資料として

- ① 新1年生の小学校生活スタート時の指導計画作成では、入学した子ども達がスムーズに小学校での生活や学びに適應できるように配慮することが必要です。

入学時期の指導計画の作成に当たって、認定こども園での活動や教育内容を理解し、幼児期の経験を小学校での生活や学びの土台として、学びの連続性を確保し、どのように伸ばしていくかを検討する資料として「接続プログラム」を活用してください。

### ● 認定こども園・小学校の教職員の連携の資料として

- ① 認定こども園・小学校のお互いの教育・保育の内容や子ども達の学び方を理解したり、より具体的な卒園時期の指導計画や入学時期の指導計画の工夫や協同した取り組みの検討等について、認定こども園と小学校の連携協議や情報交換をする際の資料として「接続プログラム」を活用してください。

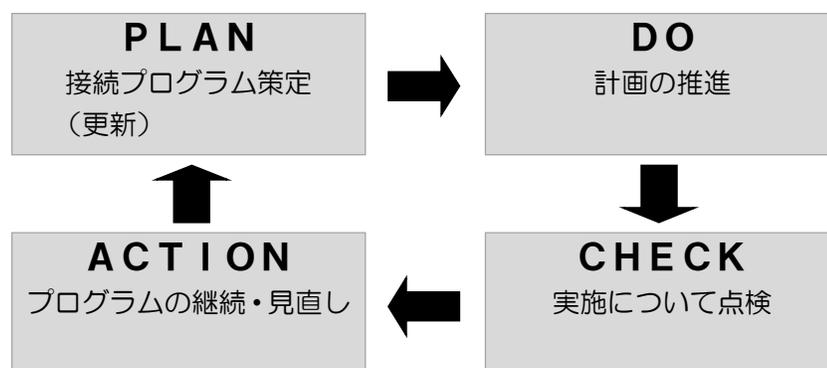
- ② 認定こども園、小学校で子ども達の生活や学びの内容を確かめ合うための資料としても活用してください。

時期		幼児教育（年長児童：5歳児）				小学校教育（小学1年生）
		4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月（入学期）……………夏休み
ねらい		生活に目標を持ち、それに向かって努力をし何事にも最後までやり遂げ達成感や充実感を味わう中で就学に向かっている自信を持つ				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・最年長児としての喜びを感じ、自覚をもった行動をとる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で自分の考えや思いを伝え、友達の気持ちを受け止めながらやり取りをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との共通の目的をもって協力し仲間の大切さ、親しみ、信頼感を高める。感じたこと、想像したこと、工夫考えたことを表現する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動や他者との関わりを通して、自主性や思いやりを育み、就学への意欲を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での新しい生活に慣れ、仲間と一緒に生活や学習にのびのびと取り組む中で自分らしさを発揮する</li> </ul>
教育目標 「社会を背負う、世界にも通用する 知・徳・徳・体」	確かな学びの基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者とかかわりの中で信頼関係を築き自分の思いを伝えることができる</li> <li>・聞いて心地よく、うれしい言葉があることに気づき、自ら使おうとする</li> <li>・様々な素材を使って自由に描いたり作ったりして楽しむ</li> <li>・外国人講師による英語あそびを楽しむ（通年）</li> <li>・特別な支援を要する園児への個別の教育支援計画による支援の実施（通年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の話聞いてその思いを受け入れ自分の思いを言葉にして伝え会話を楽しむ</li> <li>・素材や方法を選びイメージを持って造形活動を楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字や数字に興味を持ち自分の思いを伝える手段として取り入れようとする</li> <li>・楽器を使って音の美しさやリズムに合わせる楽しさを味わう</li> <li>・日常生活の中で数を数えたり、ひらがなや数字を身近に感じ、関心を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団活動でのイメージを共有し役割を分担する中で活動や遊びを展開する</li> <li>・思考力、認識力が高まり自然現象、社会事情、文字などに興味関心が深まる様々な経験を通して自立心が高まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での過ごし方（生活や学習リズム、学校施設など）に慣れ、楽しく学校生活を送ろうとする</li> <li>・鉛筆の持ち方に気を付け丁寧に名前やひらがなを書こうとする</li> <li>・本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読んだり読み聞かせを聞いたりする</li> <li>・数量や図形、標識や文字などを使った学習に関心を持って取り組むことができる</li> <li>・学習の中で発見したことを言葉で表現することができる</li> <li>・音楽や造形、身体による表現など、自分の気持ちや考えを表現することを楽しむことができる</li> <li>・生活や学習での課題に意欲的に取り組むことができる</li> <li>・小学校外国語活動を楽しむことができる</li> </ul>
	豊かな人間性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力したり、工夫して共通の課題を持って遊びを展開する</li> <li>・動物や自然現象に興味関心を持ち、生活の中で取り入れ遊ぶ</li> <li>・日差しや風の心地よさ、花や草木の芽生えを楽しみ春を感じる</li> <li>・四季折々の季節の歌を歌ったり、いろいろな曲聴いたり、様々な絵本や物語に触れる（通年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、ほめられたり認められる中で満足感を得て自信を持つようになる</li> <li>・遊びや行事などを通して友達との関わりを持ち、協力し力を合わせる大切さを知る</li> <li>・季節の変化に気づき、夏ならではの遊びや自然現象に興味を持ち感性を育む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に向かい最後までやり遂げる気持ちを育み、自信に結び付けようとする</li> <li>・みんなで協力し一つの目標に向かい達成することの素晴らしさを知る</li> <li>・落ち葉や木の実など自然の移り変わりを感じ自然に親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を調整しながら友達との関わりの中で合意を得て活動や遊びを広げる</li> <li>・達成感や自信を持つことで充実感を味わい、心の安定を保つ中で生活を送れるようになる</li> <li>・集団生活の中で自己主張をしたり相手の意見を取り入れ協力し合う</li> <li>・冬の自然に触れて、不思議に思ったり、様々な発見をしたりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や返事、相手を考えた言葉遣いに心がける</li> <li>・話を落ち着いて最後まで聞くことができる</li> <li>・自然の事物や現象について関心を持ち積極的に関わることができる</li> <li>・友達と協力して活動する楽しさを味わう</li> <li>・目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力することができる</li> <li>・相手の気持ちを考えたり自分のふるまいを振り返ったりすることを通してルールを守り学校生活を楽しくしていこうとする</li> </ul>
	健全な心身	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康を保てるよう規則正しい生活リズムを身に付ける</li> <li>・適度な休息をとり季節の変化に応じた健康管理を行う</li> <li>・食習慣、マナーを身につけ、友達や保護者と食事をとることを楽しむ</li> <li>・基本的な交通ルールを知り、安全に戸外活動を楽しむ</li> <li>・スポーツインストラクターによる様々な運動あそびを楽しむ（通年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汗をかいたらこまめに拭いたり、着替えるなど、清潔に保つことの心地よさを感じるようになる</li> <li>・暑さに負けず、食事や水分、休息をとることで体力づくりをする</li> <li>・野菜を育て収穫し食への関心を持つ</li> <li>・気温に合わせて衣服の調整を行い健康的に過ごす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動や体験を通して危険から身を守ることや病気の予防意識できるようにする</li> <li>・様々な遊具や運動用具等に触れ体を動かすことの楽しさを感じる</li> <li>・米の収穫や料理体験などを通じて食に対する興味関心を持つ</li> <li>・遊具や運動用具の遊び方に気を付け安全に遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に応じた適切な運動をルールを守り楽しめるようにする</li> <li>・休息の大切さを知り自ら取るようにする</li> <li>・食を通してすべての命の大切さや働く人への感謝の気持ちをもって食事を味わう</li> <li>・自分の健康に関心を持ち病気の予防など必要な活動を進んで行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な交通ルールを守り、安全に気を付けて学校生活を送ることができる</li> <li>・健康に対する意識を持つことができる（家庭での生活リズム、清潔に対する意識）</li> <li>・運動遊びや休み時間などの外遊びを通してのびのびと行動することができる</li> <li>・自分でできることは自分でしようと意欲をもって取り組むことができる</li> <li>・食事の大切さや学び、給食の配膳や後片付けができ、給食を楽しむことができる</li> <li>・公共の場所のルールやマナーを守ることができる</li> <li>・仲間と楽しみながら多様な動きのある運動をすることができる</li> </ul>
主な活動・行事		入園・進級式、田植え、地引網、春の遠足、こどもの日のお祝い、英語であそぼう、わくわくスポーツなど	運動会、七夕の会、夕涼み会、プール、バス遠足、乗馬体験、英語であそぼう、わくわくスポーツなど	文化祭、1日駅長、こども園祭、稲刈り、もちつき、クリスマス会、英語であそぼう、わくわくスポーツなど	卒園式、雪中レク、節分、入学説明会、おひなさま会、お別れ会、英語であそぼう、わくわくスポーツなど	全体：入学式、1年生を迎える会、運動会 学年：入学時の集団下校、交通安全教室、給食開始（4月下旬） 学級：清掃活動、参観日、遠足、プール学習、個人懇談（家庭訪問） など
認定こども園と小学校との連携		教職員交流（園活動・園情報交換）	園児小学校プール体験 学校校舎・校庭での運動会	園児小学校見学	教職員交流（園情報交換・引継ぎ）	教職員交流（新1年生情報交換）
認定こども園・小学校の各行事での教職員交流（入園式、入学式、運動会、文化祭、学芸会、参観日、各種会議 など）						

## 12 改善サイクル

幼保小接続プログラムの策定に当たり、小学校関係者、認定こども園関係者を中心に子どもブレイハウス関係者、子ども発達支援センター関係者等とも連携し、幼保小のスムーズな接続を目指し本プログラムを策定しております。

本プログラム策定後も実効性やさらなる充実に向け「PDCAサイクル※」の流れに沿い、検討・協議・更新を行います。



※PDCAサイクル：接続プログラムの策定から見直しまでを一貫し、円滑及び充実を図るための手法として、Plan（計画）→Do（実行）→Check（点検）→Action（改善）の4工程を行う中で継続的な改善を図り、より効果の高いそして実効性のあるプログラムとなるよう定期的に更新を行う流れ。

参考文献：幼保連携型認定こども園教育保育要領、小学校学習指導要領、北海道幼児教育振興基本方針  
中央教育審議会初等教育分科会教育課程部会幼児教育部会資料

## 当別町幼保小接続プログラム

令和2年 3月 策定

令和3年 11月 一部改訂 連携交流追加 (p.9)

令和6年 4月 一部改訂 行政組織変更等に伴う改訂 (表紙等)

---

当別町 福祉部 子ども未来課 子ども係  
〒061-0234 北海道石狩郡当別町西町3 2番地2  
電話 0133-23-3024 FAX 0133-25-5018